

第9回 政策企画会議 会議概要

開催日	2022年2月2日（水曜日）
議 題	令和4年度の施政方針について
担当部署	企画部企画課

事案の概要

- 令和4年度の施政方針について確認する。
（確認事項）
・構成及び内容

主な意見

- 上記確認事項について了承した。

今後の方向性・結論

- 令和4年度の施政方針として決定し、令和4年第1回定例会にて表明する。

令和4年度の施政方針について

令和4年度の施政方針を次のとおり、決定する。

1 中野の今、そして未来のために

- 中野区基本構想を区政の羅針盤とし、常に基本構想に立ち戻り、方向性を確認し、取り組みを効果的に進めていく。
- 対話の徹底と現場主義に基づき、方針や取組を変更する判断に至った場合は、区議会、区民に対して、丁寧かつ明確に説明し、十分耳を傾けながら、柔軟な対応を行う。
- 国や東京都の動向はもとより、技術革新や新たなサービスなどへの感度を高め、従来の慣行や既成概念にとらわれることなく、区民本位の立場で区政運営に取り組む。
- 区民や事業者との協働・協創を一層図り、中野区基本計画で示した3つの重点プロジェクトによる取組の実効性を高めていく。
- 3つの重点プロジェクトを今後の区政運営の3本の柱として、ポストコロナを見据えた政策を推進していく。

2 第一の柱 子育て先進区の実現に向けて

- 子ども・子育てを応援し、誰一人取り残さない教育を実現するための取組は、子育て先進区を目指す区が国や東京都をリードしていく。
- 現在、検討を進めている子どもの権利に関する条例に基づき、子どもの視点に立ち、子どもの本音を踏まえた、切れ目ない対応や支援を実施していく。
- 子どもの貧困対策を充実し、教育機会や体験の格差の解消に取り組む。

(主な取り組み)

- (1) 子どもや子育て家庭に対するセーフティネットを強化
- (2) 子育て・子育て環境の質を向上
- (3) 地域全体で子育てを応援するための体制づくり

3 第二の柱 地域包括ケア体制の確立に向けて

- 現在検討を進めている「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」を策定し、取組を進めていく。中野が、都市部における地域包括ケアの一つのモデルとなることを目指していく。
- 生きづらさを抱える人や個人、世帯の複雑化する生活課題を解消するため、重層的支援の体制の強化に取り組む。
- 単独の相談支援機関では解決が困難な事例は、事業者や各種機関との連携により解決を図り、地域ケア会議の開催を中心として、連携力を高めていく。

- 新型コロナウイルス感染症の長期化により、増えている生活困窮者を支援していく。
(主な取り組み)
- (1) 区民の多様な課題を受け止め、解決につなげる体制づくり
- (2) 社会とのつながりの中で一人ひとりに寄り添った支援
- (3) すべての人に居場所があり、無理なく見守り支えあう地域づくり

4 第三の柱 活力ある持続可能なまちの実現に向けて

- 活力ある持続可能なまちの実現に向けて、多様性を認め合い、様々な主体による連携・協力によりソフト・ハードの両面でまちのデザインを描いていく。
- 厳しい状況にある区内中小企業の経営を支援し、事業活動の活発化を図る。
- 中野駅周辺のまちづくりは、駅とまちをつなぐ、歴史と未来をつなぐまちづくりとして、ミューラルをはじめ、文化・芸術を育むエリアと、その発信拠点にしていく。
- 防災まちづくりの推進の取組として、東京都の首都直下地震の被害想定の見直しを踏まえ、区としての備えを着実に進めていく。
- 「2050ゼロカーボンシティなかの」の実現のために、区民や事業者との協働・協創を進めていく。
(主な取り組み)
- (1) 地域経済の回復とまちのブランディングによる産業の活性化
- (2) 活力の再生と創出に向けたまちづくり
- (3) 脱炭素社会の実現を見据えたまちづくり

5 持続可能な区政運営の実現に向けて

- 3つの柱を進めるために、次の3点に取り組む。
- 構造改革の推進、中野区版DXの推進
 - 情報発信力の強化と広聴機能の充実、危機管理力の向上
 - 職員の育成・多様な人材の確保

6 不確実性の時代に対応する区政運営を

- これまでに、区民や区議会とともに歩んできた歴史を振り返り、さらに前進させていくため、基本計画に基づき、一つ一つの取組を着実に実施し、区政を粘り強く進めていく。
- さらなる歩みとして、多様性を尊重し、様々に意見を交わしながら、区民、事業者・団体と区が協働・協創し、区政を運営していく。
- 社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、区政運営を「スピード感を持った対応」ではなく、「スピーディな対応」で取り組む。